

佐久市駒の里過疎対策プロジェクト支援金事業 自己評価報告書

		評価日	平成28年3月	日
団体名	多津衛民芸館運営委員会			
事業名	地域文化育成普及事業			
対象経費	1,935,770円	支援金額	967,000円	

事業の目的・内容	目的 日常使う陶磁器や木製品・布などの中に美を見出し、人々の暮らしの豊かさを求めた民芸運動は、信州でも大きな広がりを見せたが、佐久市出身の教師小林多津衛はその運動の中心的な一人であった。その功績を地域に広めることにより、地域文化の普及をはかる。 佐久地区で活躍する工芸家や音楽家を広く紹介する機会を作り、さらに市民に広く呼びかけ、市民参加の行事を多く実施する。 また、これまでの多津衛民芸館の活動実績が認められ、平成28年度には、全国規模の「日本民藝夏期学校」が当館で開催される予定です。これは、民芸の世界で佐久市が高く評価されることにより、佐久市の文化の全国発信及び交流人口の創出につなげたい。
	内容 ①地元工芸家や、県内工芸家の作品を展示する作品展示会開催 ②地元音楽家のコンサート開催 ③地域の文化や暮らしなどを取り上げた冊子の発行 ④民芸運動や地域づくりなどに関する講演会学習会の開催 ⑤地元工芸家の連絡組織をつくる ⑥文化普及事業推進のための環境整備（敷地内に自然と工芸美を備えた遊歩道を整備する、建物と周辺を一体的に整備し、工芸作品で装飾する）

事業の活動実績	①地元工芸家や、県内工芸家の作品を展示する作品展示会開催、8月漆・木工・陶磁・木工・琴5人展（出品者5人）・11月平和と手仕事展（出品者は地元工芸家20人）来場者多数 ②地元音楽家のコンサート開催、6月古楽合奏コンサート（出演者3人）来場者50人・12月クリスマスコンサート（3人）来場者70人 ③地域の文化や暮らしなどを取り上げた冊子『平和と手仕事』の発行、7月（80ページ） ④陶芸染色講習会開催（6月～12月） ⑤環境整備（進入路に民芸の遊歩道造成、民芸館の外壁装飾工事）
---------	---



事業の成果・効果	「民芸」という言葉を生み、日本民芸館を造った柳宗悦は、職人たちが作った生活に必要なもの、器や布・木製品の中に美しさを発見し、地域の個性あふれた文化の大切さ世に問うた。小林多津衛は若き日から柳に傾注し、自身も民芸の品々を蒐集し、展示会を開き続けた。その多津衛の願いを多くの人が共有し、協力しあって多津衛民芸館は造られた。今年度は、特に環境整備に努力した。多津衛民芸館への進入路を、民芸にふさわしい遊歩道として整備し、また館の外壁を装飾し、美観を向上させた。事業としては展示会やコンサートを開催し、地域の演奏家や工芸家と地域住民の交流を図り、準備会や当日、そして反省会の中で「本当の豊かさ」について話し合われた。また、冊子の発行では、多くの人たちに「これからの暮らし」について考えていただける内容を盛り込んだ。多くの人たちの心がつながり、生きる力の一助になったと思われる点は、この事業の成果と言えるだろう。
----------	---

自己評価	事業は申請どおり実施できた	1 できた ○2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 主な理由（3、4と答えた場合のみ）
	事業の実施によって、期待した効果をあげることができた	1 できた ○2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 主な理由（3、4と答えた場合のみ）
	実施計画書と実績報告書の活動費の内訳について	1 ほとんど同じ ○2 多少の変更があった 3 大幅に変更している 主な理由（2、3と答えた場合のみ） 講演会が開催できなかった。地元工芸家の連絡組織は話し合いの段階である。
その他、評価すべき点等	事業を進める上での環境が向上した。また展示会・講習会・コンサートの実施で、多くの市民の交流の場を作ることができた。事業の準備や反省会も含めて、多くの来場者があった。小林多津衛が願っていた「真に豊かな暮らし」「お互いが慈しみ合い、支え合う暮らし」を、地域の中に広めることができた。	

※ 自己評価の欄は、番号に○を付けてください。評価は、客観的自已診断です。

今後の事業展開	平成27年度に実施した事業を発展させ、より多くの人に参加していただけるよう工夫したい。多津衛民芸館の活動が、日本民芸館や日本民芸協会に認められ、来年度に、日本民芸夏季学校を多津衛民芸館で開催することになった。平成28年度はこの夏季学校開催に合わせ、学習会や研究活動、館の整備に取り組みたい。日本民藝夏期学校成功のために全力を尽くしたい。
---------	--